

試合番号 : 359	試合会場 : 一関市総合体育館ユードーム	観客数 : 763					
開始時間 : 13:00	終了時間 : 15:21	試合時間 : 02:21					
主審 : 佐藤 美里	副審 : 津嶋 由香						
ブレストージ・インターナショナルアラマーレ	通算 0勝 10敗 ポイント : 1	25 第1セット 19	KUROBEアクアフェアリーズ	通算 2勝 8敗 ポイント : 8			
監督コメント	2	18 第2セット 25	3	19 第3セット 25	25 第4セット 16	11 第5セット 15	まずは本日のゲームに勝利できた事を素直に喜びたい。相手チームのディフェンスが素晴らしく、こちらのプレーが粗くなり、非常に波のあるゲームとなってしまった。当初のゲームプランや日頃から心掛けて行っていることが徹底できず、本日も課題が多く残るゲームであった。明日のゲームは当然のことながら、今後のゲームにおいて自らの力を十分に発揮できるよう良い準備をしたい。本日もたくさんの応援ありがとうございました。
要約レポート	まずは気持ちを切りかえて、明日の1戦に向けて準備したいと思えます。第1セット、序盤でブレストージ・インターナショナルアラマーレが6連続得点で流れを掴み終盤までリードを奪った。第2セット、中盤までは両チーム互角に試合を進めるが、そこからKUROBEアクアフェアリーズがコケム、高橋のスパイクなどで引き離し、このセットを奪い返した。第3セット、中盤でKUROBEが高橋のスパイクなどで逆転に成功。終盤はコラムの強打でリードを広げ、このセットも奪った。第4セット、アラマーレはスターティングを2人入れ替え反撃を試みる。中盤、アラマーレは石盛の効果的なサーブで崩し、7連続得点で抜け出すと岡村、前田のスパイクでリードを広げ、最後は木村の連続スパイクで取り返し、最終セットへ。第5セット、一進一退でゲームは進む。両チームともレフトスパイクと堅い守りで終盤まで進むが、最後はKUROBEが佐藤(葵)の3連続得点で熱戦を制した。						

試合番号 : 360	試合会場 : 一関市総合体育館ユードーム	観客数 : 763					
開始時間 : 16:00	終了時間 : 17:25	試合時間 : 01:25					
主審 : 桑原 健輔	副審 : 伊藤 薫						
日立Astemoリヴァール	通算 4勝 6敗 ポイント : 11	19 第1セット 25	PFUブルーキャッツ	通算 3勝 7敗 ポイント : 9			
監督コメント	0	18 第2セット 25	3	22 第3セット 25			久しぶりのゲームだったが、序盤からいい形を作ることができたと思う。相手のサーブに崩される場面も多かったが、集中力を切らさず、ゲームをコントロールすることができたと思う。久しぶりに戻った選手が活躍し、これまで頑張ってきた選手と総力を結集して戦うことができたので、明日もしっかり準備して試合に臨みたい。雪の中、会場に来て下さった皆さん、画面越しに応援して下さいました。ありがとうございます。
要約レポート	第1セット序盤、両者譲らない展開であったが、中盤PFUブルーキャッツはサンタナのスパイクと細沼のブロックなどで7連続得点を上げリードを奪う。日立Astemoリヴァールはオクム大庭にボールを集め追いつこうとするが、PFUは粘り強いレシーブで流れを渡さない。終盤までリードを保ったPFUが第1セットを先取した。第2セット序盤、日立Astemoは渡邊のサーブなどで流れをつかもうとするも、PFUはリードを許さず両者互角の展開。中盤PFUはバルデスのスパイクなどで連続得点し、終盤にもサンタナのスパイクなどで連続得点を上げたPFUがこのセットも連取した。第3セット立ち上がり、日立Astemoは野中のサーブで得点を上げリードするが、PFUはセッター山下を中心とした多彩な攻撃で逆転する。中盤PFUはコースを狙ったサンタナのサーブで崩しリードを広げる。終盤日立Astemoは長内やオクム大庭のスパイク、野中のブロックなどで追いつけるが、最後はPFUが逃げ切り勝利を掴んだ。						

試合番号 : 361	試合会場 : 岡崎中央総合公園総合体育館	観客数 : 1,558					
開始時間 : 12:05	終了時間 : 14:10	試合時間 : 02:05					
主審 : 増岡 三佳子	副審 : 佐々木 伸子						
デンソーエアリービーズ	通算 5勝 5敗 ポイント : 16	19 第1セット 25	岡山シーガルズ	通算 2勝 8敗 ポイント : 7			
監督コメント	3	25 第2セット 20	1	25 第3セット 13	30 第4セット 28		勝利のチャンスがありながら点差に誘惑され、攻めが甘くなり、単調になり過ぎてしまった。いいゲームの流れになりながら、勝ち切るためにはプレーの精度を全員が一つになりながら厳しく心に留めて頑張っていかなければならない。明日の年内最後の試合に向け、修正していききたい。本日は大変寒いく、温かいご声援、誠にありがとうございました。
要約レポート	デンソーエアリービーズと岡山シーガルズの対戦。第1セット、デンソーがロザマリア、横山を中心に得点を重ねスタートダッシュを切る。一方、立ち上がり流れが悪かった岡山は高柳に代わりコートに入った金田が得点を量産する。その活躍に引っぱられるようにレシーブの連携もよくなり、粘りを見せて得点を重ねる場面が増えた岡山は、佐伯の攻撃も好調で9-9以降は一步もリードを許さずにゲームを進め、最後は山城の攻撃が決まり先取した。第2セット、デンソーはセッターのジュリアがロザマリアにトスを集め流れに乗っていく。リベロ福留の献身的なレシーブ、ブロックフォローなどもあり、つなぎが安定すると、さらにロザマリア、中元、横山(真)の攻撃もストレスなく決まり、このセットを奪取した。岡山はセッター宇賀神がトスを散らし、的を絞らせないトスワークを見せ、川島も要所で存在感を見せるも一歩及ばなかった。第3セット、デンソーは第2セットの勢いそのままロザマリアにトスを集め攻撃を仕掛けると、中元の攻撃も決まり連取した。第4セット、メンバーをまぎるしく代える岡山は小松原のライトから攻撃が決まり流れを作る。金田、山城、佐伯のブロックアウトや攻撃で8連続得点で21-11と一気に差をつけた。このままいくのかと思われたが、デンソーがここから驚異の追い上げをみせる。川畑のサーブで相手を崩すと中元の攻撃がごとく決まり横山(真)の攻撃で同点に追いつくとこのセットを逆転で奪い、この試合に勝利した。						

試合番号 : 362	試合会場 : 岡崎中央総合公園総合体育館	観客数 : 1,558					
開始時間 : 15:15	終了時間 : 16:27	試合時間 : 01:12					
主審 : 内藤 聡美	副審 : 吉岡 奈々						
NECレッドロケッツ	通算 8勝 2敗 ポイント : 23	25 第1セット 10	東レアローズ	通算 4勝 6敗 ポイント : 11			
監督コメント	3	25 第2セット 16	0	25 第3セット 20			ゲームの入りを意識して、全員で攻め続けるバレーを展開しようとしたが、NECレッドロケッツの勢いにやられてしまいました。気持ちを切り替えて、年内最後の試合を勝って終わるように、チーム全員で戦いたいと思います。本日は、応援ありがとうございました。
要約レポート	NECレッドロケッツが、東レアローズから勝利を取った。NECにとっては、先日の皇后杯を獲った女王にふさわしい圧巻の試合だった。第1セットはNECのセッター塚田がまんべんなくトスを供給し、レフト・ライト・ミドルとアタッカー陣がそれに応え、出だしから7連続得点を奪って流れをつかんだ。高いブロックで相手の攻撃を阻み、抜けたボールはレシーバーがつなぎ、前衛がそれを確実に仕留めるというNECの強さは見事だった。その後も5連続ブレイクで13-2と大差リードを奪うと、そのままの勢いで25点まで突っ走った。第2セットもNECが序盤に3連続ブレイクと4連続ブレイクで11-5とリード。中盤にも3連続ブレイクを奪い、さらにリードを広げた。山田の連続サーブミスエース、柳田と古賀の連続ブロックなど、サーブとブロックで優位に立ったNECがセーフティリードのままセットを連取した。終盤、"2枚代え"で入った柳田がライトから3本攻撃を決めるなど、層の厚さも見せつけた。第3セットもNECがドルズやアチャラホーンの高い攻撃力で10-5と序盤にリードした。東里も、大崎の連続ブロック、ヌワカロールの強打などで反撃を見せ、13-13と中盤まで追いつくことができた。ところがNECは、15-14から山田の効果的なサーブを起点に5連続得点を奪って抜け出すと、そのまま相手の追従を許さなかった。東里はこのセット、ヌワカロールが10得点と目を見張る活躍を見せたが、総合力で勝るNECには及ばなかった。						

※本票の著作権は、一般社団法人ジャパンバレーボールリーグに帰属します。